

連結自己資本比率

連結自己資本比率（第二基準）

（単位：百万円）

| 項目 | | 平成15年度末 | 平成16年度末 |
|---|-------------------------------|-----------|-----------|
| 基本的項目 | 資本金 | 50,000 | 50,000 |
| | うち非累積的永久優先株 | — | — |
| | 新株式払込金 | — | — |
| | 資本剰余金 | 105,408 | 272,412 |
| | 利益剰余金 | 25,086 | 32,012 |
| | 連結子会社の少数株主持分 | 175 | 439 |
| | うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券 | — | — |
| | その他有価証券の評価差損(△) | — | — |
| | 自己株式払込金 | — | — |
| | 自己株式(△) | △1,402 | △ 264 |
| | 為替換算調整勘定 | — | — |
| | 営業権相当額(△) | — | — |
| | 連結調整勘定相当額(△) | — | △40,413 |
| | 計 (A) | 179,267 | 314,186 |
| うちステップ・アップ金利条項付の優先出資証券(注2) | — | — | |
| 補完的項目 | 土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額 | 9,131 | 8,454 |
| | 一般貸倒引当金 | 35,612 | 53,055 |
| | 負債性資本調達手段等 | 64,940 | 84,460 |
| | うち永久劣後債務(注3) | 46,500 | 46,500 |
| | うち期限付劣後債務および期限付優先株(注4) | 18,440 | 37,960 |
| | 計 | 109,684 | 145,969 |
| うち自己資本への算入額 (B) | 94,942 | 125,867 | |
| 控除項目 | 控除項目(注5) (C) | 178 | 333 |
| 自己資本額 | (A) + (B) - (C) (D) | 274,031 | 439,720 |
| リスク・アセット等 | 資産(オン・バランス)項目 | 3,219,631 | 5,110,836 |
| | オフ・バランス取引項目 | 119,668 | 161,642 |
| | 計 (E) | 3,339,299 | 5,272,479 |
| 連結自己資本比率(第二基準) = $\frac{(D)}{(E)} \times 100$ | | 8.20% | 8.33% |

(注) 1. 自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づき自己資本比率の基準を定める件(平成10年大蔵省告示第62号。以下、「告示」という)に定められた算式に基づき、連結ベースについて算出しております。なお、当社は、第二基準(国内基準)を適用しております。

2. 告示第13条第2項に掲げるもの、すなわち、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等(海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む)であります。

3. 告示第14条第1項第3号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。

- (1) 無担保で、かつ、他の債務に劣後する払込済のものであること
- (2) 一定の場合を除き、償還されないものであること
- (3) 業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること
- (4) 利払い義務の延期が認められるものであること

4. 告示第14条第1項第4号および第5号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限られております。

5. 告示第15条第1項第1号に掲げる他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額、および第2号に規定するものに対する投資に相当する額であります。